

事業所名 グループホームいやしの家富田町
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 1月13日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員
B: 現職 介護支援専門員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、訪問介護員(7年)
A: 現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>ユニットごとに目標を掲げ、「生きがいと潤いのある生活」を送っていただくことを目指している。</p> <p>入居者とのコミュニケーションを重要視して、一人ひとりの個性を大切に、今まで生きてこられた生活様式を崩さないような介護を目的としている。</p> <p>いつも笑顔をおやすみしやすさに対応し、入居者との心と心の係わり合いの中で生きている実感・喜びを味わってもらうように努力している。</p> <p>寝たきりの原因となる、「転倒防止」には全職員が特に留意しており、気付きノートを活用する等、全員に注意を呼びかけて入居者の安全な生活を第一としている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>季節の行事・散歩・ドライブ・お墓参り等の外出により、日常生活に変化とメリハリをつけ、そのことがホーム内での生活の落ち着きに繋がるようにしている。</p> <p>職員は言葉の強弱にも配慮し、指示・指導の態度を控え、入居者自身の好み・習慣に応じた余暇活動(ワープロ・小説創作・立て付け書籍・手芸等)で個々の生活を楽しくしてもらうようにして心身の安定を図っている。</p> <p>入居者それぞれが思い思いの生活が出来るように配慮し、タバコの喫煙場所がある等ゆっくり・ゆったりの生活に取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

岡山の中心部にあり、3ユニット各々が特色のある機能的なユニットになっている。県下で初めての都市型グループホームでもあり、都市生活の利便性に優れている。

ホームに隣接して西川緑道公園・南方公園があり、いつでも自由に安全に散歩できる。岡山駅にも歩いて行ける距離で、バス停もすぐ側にあり、アクセスの良いロケーションである。

協力病院との医療提携が確立しており、入居者の体調に関しては常に家族と連絡を密接にし、安心して入居生活ができる。2週間に1度、内科と歯科の往診があり、口腔ケアにも力を入れ口腔体操の指導も行っている。積極的にリハビリテーションに取り組み、隔週ごとに理学療法士による専門的指導を受け、基本的な体力機能回復・維持に力を注いでいる。

日中、各ユニットには常時3名のスタッフがあり、職員を効率的に配置してパートタイマーを組み入れ、見守りの体制をしっかりと整えている。

職員は常に笑顔で入居者とのコミュニケーションを取り、明るいやさしい表情で介護を行っており、穏やかで安らぎのあるホーム生活ができている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

都市型ホームでもあり、入居者の活性化は安全性とも関連し、いつも課題となるところである。ユニット間の相互交流を今以上に拡大し、室内での趣味・娯楽・作業・カルチャー等にも工夫を加えるようにされれば、より活動的で共同生活を楽しむホームの暮らしが期待できると思われる。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者の自主性を暖かく見守る姿勢があり、物事を一斉に行うことを強制しないで個人個人の意思・希望を大切にしている。</p> <p>居室を訪問するときには、必ずノックをして了解の後、入るようにしている。一人になりたい時は、部屋の中から鍵を掛けることが出来るようにしてある。</p> <p>個人ファイルは、事務所の鍵の掛かる戸棚に収納して保管されており、プライバシーは守られている。</p> <p>個人への電話は居室に受話器を持って行き、遠慮なくプライベートな話が出来るように配慮している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>各ユニットは、積極的に研修会・勉強会に出席し、内容を全職員に報告してケア技術のスキルアップに努めている。</p> <p>「介護をする者の心が不安だと良い介護が出来ない。」という代表者の信念のもと、職員の心身状態を常に良好に保つように注意している。</p> <p>日常の小さな体調の変化にも早く気が付くように職員全員が心がけており、大事に至らず家族に感謝された事例もある。</p> <p>問題発生・ヒヤリハット・ニアミスまで全て記録に残して検討し、全職員で問題意識を共有している。平素より、問題発生を想定し、その対応のシミュレーションを様々な機会を捉えて行い、未然に防止するようにしている。</p>		